自分の道具がポジティブ概念へのアクセスを導く

○蔵富恵¹・河原純一郎²

(¹愛知淑徳大学心理医療科学研究科・²中京大学大学院心理学研究科)

キーワード: ネームレター効果, 保有効果, 潜在的自尊心

Own object lead to access of positive self-concept.

Kei KURATOMI¹ and Jun KAWAHARA²

(¹Grad School of Psychology and Medical Sciences, Aichi Shukutoku University, ²Grad School of Psychology, Chukyo University)

Key Words: Name-letter effect, endowment effect, implicit self-esteem

目 的

我々は、自分に関する事柄は、関係しない事に比べて、バイアスをかけて認識・記憶し、行動をおこす。例えば、自分に関連付けられた単語に対して、記憶成績の向上 (Rogers et al., 1977) や反応の促進 (Cloutier & Macrae, 2008) が見られる。日常場面においては、自分の誕生日に近い人の誕生日の記憶が残りやすかったり (Kesebir & Oishi, 2010)、自分の物に対しての価値が高かったりする (Kahneman et al., 1991)。さらに、ネームレター効果のように、自分の名前に含まれる文字の評価が他の文字よりも高くなる現象もある (Nuttin, 1987; Kitayama & Karasawa, 1997)。これは、潜在的自尊心の反映であると考えられ (Pelham et al., 2005)、潜在的自尊心が高いほど NLE も大きくなる。

潜在的自尊心は自己とポジティブ情報を関連付けることによって上昇させることができる。Dijksterhuis (2004)は、自己が関下プライムとして呈示される単語判断課題を行った後に、ネームレター効果を測定した。その結果、自己とポジティブ情報が関連付けられることによって、ネームレター効果の上昇が見られた。

本研究では潜在的自尊心を向上させる単純な手法として、所有物の効果に注目する。自分の所有物に対して評価が高くなる (Kahneman et al., 1990) ことは、自分の所有物によって自己のポジティブ概念へのアクセスを導いているためかもしれない。それゆえ、自分の所有物によって自己に関する評価を行った際には、他の所有物で評価するよりも、ポジティブ評価になることが考えられる。そこで、自分あるいは他人の所有物によって、ネームレター効果に違いが見られるかを測定した。もし、自分の所有物によって自己のポジティブ概念へのアクセスが導かれるのであれば、他人のペンを使用するよりも自分のペンを使用した際に、ネームレター効果が大きくなることが予測される。しかし、書き慣れた自分のペンという流暢性 (Alter & Oppenheimer, 2009) が、全体的にポジティブな評価を導くのであれば、他人のペンを使用した時に比べて、全体的な評価が上昇するものの、ネームレター効果に差は見られないことが予測される。

方 法

要因計画 ペンの所有者 (自分, 他人) × アルファベットの評定値 (イニシャル, ベースライン) の 2 要因混合計画。**実験参加者** 大学生 199 名 (女性 141 名)。**手続き** ランダムな順序で記載されたアルファベット文字を一文字ずつ 7 件法 (1 = とても嫌いである ~ 7 = とても好きである) で評定。101 名の参加者は自分が所有する普段最も使っているペン (自分条件) で、残りの参加者は実験者が提供したペン (他人条件) によって、評価を行った。

結 果

Kitayama & Karasawa (1997) のネームレター効果の算出方法を用いて、参加者の名前に含まれるイニシャル文字に対す

る評定値の平均 (イニシャル条件) とすべてのアルファベット文字に対する評定値の平均 (ベースライン条件) を算出した。それらの評定値を用いて、要因計画に沿った分散分析を行った。その結果、アルファベット文字の評定値に主効果が見られ ($F(1, 197) = 181.122, p < .001, \eta_p^2 = .48$)、ネームレター効果 (0.90) が得られた。また、ペンの所有者に主効果は見られなかった ($F(1, 197) = 2.280, p = .13, \eta_p^2 = .01$)。注目すべきことに、2 要因の交互作用が得られ ($F(1, 197) = 10.321, p = .002, \eta_p^2 = .05$)、他人条件 (0.69) に比べて、自分条件 (1.12) においてネームレター効果が高いことが明らかとなった (図 1)。さらに、このネームレター効果の変動は、ベースライン条件では見られず ($F(1, 394) = 0.235, p = .628, \eta_p^2 = .001$)、イニシャル条件 ($F(1, 394) = 9.101, p = .003, \eta_p^2 = .02$) において見られた。

図 1 各条件における評定値 (バーは標準誤差)

結 論

本研究では、所有物がネームレター効果で測られる潜在的自尊心に及ぼす影響を検討した。その結果、他人のペンを使用して評定を行うよりも、自分のペンを使用して評定を行った方が、自分のイニシャルに対する評価が高まることがわかった。これは、単なる自分のペンが書き慣れているという流暢性がアルファベット文字全体に対してポジティブな評価を導いているのではなく、自分の所有物であることが自己のポジティブ概念へのアクセスを導いていることを示唆している。

引 用 文 献

- Dijksterhuis (2004). I like myself but I don't know why: Enhancing implicit self-esteem by subliminal evaluative conditioning. *Journal of Personality and Social Psychology*, **86**, 345-355.
- Kitayama, S., & Karasawa, M. (1997). Implicit self-esteem in Japan: Name letters and birthday numbers. *Personality and Social Psychology Bulletin*, **23**, 736-742.